

特定外来生物等専門家会合で特定外来生物等に指定することが適当とされた外来生物の概要

種類名	学名	評価の理由
ブランタ・カナデンスィス(カナダガン)	<i>Branta canadensis</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 増殖率が高く、ニュージーランド、ヨーロッパに導入されて爆発的に増加したことが報告されている。 ・ 我が国においても、一部地域で定着が確認されており、野外に定着している個体を放置すれば、大幅な個体数の増加や分布域の拡大を招く可能性がある。 ・ その場合、在来の種シジュウカラガン (<i>Branta hutchinsii</i>) や他の在来ガン類と交雑する可能性が危惧されている。 ・ このほか、植物への食害による環境改変や食物をめぐる在来種との競争、農作物への被害が発生する危険性が考えられる。
ルドウィギア・グランディフロラ	<i>Ludwigia grandiflora</i>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茎の断片から発根する繁殖力が非常に旺盛で、茎の伸長速度も極めて速い水生植物で、ヨーロッパやアメリカで、水上や水中で繁茂し、他の植物の生育を阻害するなど侵略的な外来植物となっている。 ・ 日本においても基本亜種のオオバナミズキンバイが近年定着し、急速に分布面積を拡大しており、在来種の駆逐など、生態系への影響が発生しつつある。 ・ 絶滅危惧種の在来種ミズキンバイ (<i>L. peploides</i> ssp. <i>stipulacea</i>) 等と交雑し、遺伝的攪乱を引き起こすことが危惧されている。
スパルティナ属全種	<i>Spartina</i> spp.	<ul style="list-style-type: none"> ・ スパルティナ属の一種であるスパルティナ・アングリカは、日本に定着していないが、海外では急速に分布を拡大するなどして問題になっており、日本に定着した場合、希少な環境である汽水域の在来植物と競争するおそれが大きいとして特定外来生物に指定されている。 ・ スパルティナ・アングリカの母種の一つであるスパルティナ・アル

		<p>テルニフロラ(ヒガタアシ)が近年日本に侵入し、急速に分布を拡大している。</p> <ul style="list-style-type: none"> これらの種を含むスパルティナ属は、いずれの種類も、日本に定着した場合、希少な環境である汽水域の在来植物と競合するおそれがある。さらに干潟が草原化することで環境が改変されるため、干潟に生息する生物へ影響を及ぼすことが懸念される。
マカカ・キュクロピス(タイワンザル)がマカカ・フスカタ(ニホンザル)と交雑することにより生じた生物	<i>Macaca cyclopis</i> × <i>M. fuscata</i>	<ul style="list-style-type: none"> 和歌山県及び青森県でニホンザルとの交雑が確認されており、遺伝的攪乱により在来の生態系に影響を及ぼすおそれがある。
マカカ・ムラタ(アカゲザル)がマカカ・フスカタ(ニホンザル)と交雑することにより生じた生物	<i>Macaca mulatta</i> × <i>M. fuscata</i>	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県でニホンザルとの交雑が進行していることが確認されており、遺伝的攪乱により在来の生態系への影響が発生しつつある。
モロネ・クリュソプス(ホワイトバス)がモロネ・サクサティリス(ストライプトバス)と交雑することにより生じた生物	<i>Morone chrysops</i> × <i>M. saxatilis</i>	<ul style="list-style-type: none"> 生態系に被害を及ぼす可能性があるとして共に特定外来生物に指定されているストライプトバス(<i>Morone saxatilis</i>)とホワイトバス(<i>M. chrysops</i>)の交雑種である。 ストライプトバス、ホワイトバスと同様の生態で肉食性が強く、両種よりも成長が速い。また、両種よりも高水温や低酸素などの水質悪化に耐性がある。 交雑個体同士での繁殖は不可能だが、交雑個体とストライプトバスあるいはホワイトバスとの戻し交配により繁殖が可能である。 湖沼や河川に導入されれば、捕食や競合により在来種を駆逐するなどして在来生態系に影響を及ぼすおそれがある。